

■高校生探偵・御船千里の背景

^{みふね}御船家の人間は、代々不可思議な力を持つ。

^{サイコメトリー}残留思念を読む力。

空間に残った様々な^{イメージ}思念を読み取る能力だ。

あなたに宿ったのは、その中でも^い忌み嫌われる、死と破壊に^{まつ}纏わる思念を読む能力だった。なんでも、代々のこの力の持ち主の周りでは、^{ひごう}非業の死が相次いだのだという。

だから小さい頃からずっと、あなたは両親からも距離を置かれ、一人ぼっちで過ごしてきた。

唯一親しくしてくれたのは^{ほうとうもの}放蕩者の叔父だったが、彼は定職にもつかずふらっと旅立つ癖^{くせ}があり、たまにしか構ってくれなかった。

何故自分にはこんな力があるのか。どうして何の役にも立たない力のせいで、皆に^い忌み嫌われないといけないのか。

そんな考えが変わったのは、中学生のあの日。刑事・^{とうごうかおる}東郷 薫 と出会った日だった。偶然あなたの異能を知った東郷は、あなたにその力で当時起きていた連続殺人事件を解決するよう頼んできたのだ。

東郷のおかげで、あなたは自分の能力の使い道を知った。

探偵としての道を知ったのだ。

以来、あなたは東郷と協力していくつもの事件を解決してきた。そんな中で、あなたは東郷をどこか親のように信賴している。

■当日の行動

《15：00》

たいたんとう

泰端島にクルーザーが到着。泰端島を全員で散策する。

泰端島にはツアー参加者とオーナーの7人しかいないそうだ。

《16：00》

コテージでオーナーからトレジャーツアーの説明を受ける。

1カ月前、茨城県の某所ぼうしよ すおうたいざんで周防泰山の手紙が見つかり、そこには新たなタイタンの遺産の手掛かりが記されていた。しかしオーナーは手紙を見てもピンと来ず、特に遺産を独り占めたいとも思わなかった。識者しきしゃを募って宝探しをすることにしたのだという。

その宝探しというのが、このトレジャーツアーという訳だ。

手紙には「夜明けの直前、目を凝こらせ」と書かれていたそうだ。

《17：00》

オーナーから契約書を渡される。もし誰かがタイタンの遺産を発見した場合、その儲けは全員で均等に分割するという契約書だ。

トレジャーハンターの持田もちだが強く反対したが、結局、最終的には全員が契約書にサインした。

もし契約を結ばなければ、遺産を見つけたところで、発見者のモノにはならないと言われたからだ。誰が遺産を見つけようとも、この島の持ち主はオーナーなので、その権利はオーナーにある（そもそもオーナーは力士だった頃、縁起担えんぎかつぎのつもりで巨人伝説があるこの島を買い取ったらしい）。

《18：00》

リビングで夕食を食べる。オーナー特製のちゃんこ鍋だ。

《19：00》

交代でお風呂。シャワーしかない狭いお風呂だ。たぶんオーナーは、肩を縮ませないと入れないだろう。

あなたは二番目、古物商・西園寺^{さいおんじ}の次に入ったが、風呂場の床は濡れていなかった。西園寺はシャワーを浴びなかったのだろうか？

《21：00》

明日も早いので、オーナーに挨拶して各自個室に戻って就寝。

あなたは4時までぐっすり眠っていた。

《04：00》

起床してリビングに向かう。すぐに参加者全員が集まったが、オーナーは呼んでも部屋から出てこなかった。

《04：30》

もうすぐ夜明け。オーナーはたぶん寝ているのだろうと諦めて(昨晚、オーナー自身が朝は弱くて起きられないかもと言っていた)、コテージを出る。